

5月もうひと例会「緑風・暗やみドキドキ探検」報告

令和元年5月25日(土)午後7時～8時半、立田山憩の森「多目的広場」。参加者32名(うち探検隊会員19名)。この土曜・日曜が運動会という小学校も多く、「参加者が少ないのでは？」と心配しましたが、沢山のチビッ子達でにぎやかな観察会となりました。

始まりの会では、益田事務局長から「立田山自然探検隊が平成31年度『みどりの日』自然環境功労者環境大臣表彰を受賞しました」と報告。藤井会長が「この表彰は、これまで30年間、歴代スタッフと延べ1万3千人の参加者が、300回という例会を重ねてきたことに対する表彰。これからも力を合わせ、みんなで立田山を楽しみましょう」と挨拶しました。

会の始まる午後7時はまだ明るく、紙芝居「立田山のイノシシに注意」を見ながら、「立田山にイノシシが急増した」「イノシシは臆病。人の気配がすれば自分から出てくることはない」「音を鳴らしながら山に入ろう」などとイノシシの生態や危険回避の方法を学びます。「ここに人間がいることをイノシシに教えよう！」と、みんなで立田山の森に向かって「わあ〜」とカー杯さけぶ練習もしました。

次は、紙芝居「立田山のホタルたんけん」を見てホタルの生活史を勉強。チビッ子達は、自然観察指導員の「万石川にはゲンジボタルがいる」「ホタルは卵も幼虫もサナギも光る」「ホタルの餌はカワニナ。カワニナが棲める万石川の環境が大切」という話を目を輝かせ、「暗くなったよ、早くホタルを見に行こう」と急かせます。

午後7時30分、「イノシシが出たらどうしよう？」と心配顔のチビッ子もいて、みんなで「わあ〜」とカー杯さけんで、いよいよ「暗やみ探検」に出発。先頭と最後尾には男性スタッフを配置して「イノシシ撃退対策」も万全です。

サクラ池の横を抜けると遊歩道の入口。「今から森の中に入ります。イノシシを大声で追い払いましょ」と指導員にうながされ、もう一度、みんなで立田山の森に向かって「わあ〜」とカー杯さけびます。これでひと安心です。遊歩道に入ると真っ暗。懐中電灯で地面を照らしながら歩きます。途中、カエルに出会い、大きな黄色の花・ハンカイソウを観察しましたが、指導員から「万石川にほとんど水がない、先週は5〜6頭しか見なかった。今年のホタルは少ないかもね〜」と聞き、がっかりするチビッ子もいます。

さらに進んで小さな橋(ほたる橋)に着くとなんとユラユラと光の乱舞が見えます。ホタルです。大人もチビッ子も大興奮。橋の周辺に約20頭、道路を挟んだトンボ池の水路近くに約20頭が確認できました。出発前に紙芝居で勉強したチビッ子達は「これはゲンジボタル」「お尻が2つ光っているからオス」「なんか匂う」とするどい観察をして指導員もびっくり。

ホタルに熱中し、なかなか動こうとしないチビッ子達に「時間です。そろそろ帰ります」とスタッフが促します。帰る途中、懐中電灯の前を横切る小さな虫が白く光るたびに「ホタルだ、ホタルだ!」と叫ぶチビッ子に、「なんでもホタルに見えるようだね」とほほ笑むお父さん。ホタルとの出会いがよほど印象に残ったようです。湿生植物苑やサクラ池のほたりではコウホネの花、虫の声、イノシシの荒らした跡なども観察できました。クワガタムシ(♀)を発見したチビッ子も。

午後8時30分、多目的広場に帰着。ドキドキ・ワクワクの暗やみ探検は大感激・大満足のうちに無事終了しました。

突然のお願いにも関わらず、参加者の安全確保(イノシシ撃退対策)のために「ガードマン」を快く引き受けていただいた小山さん、ありがとうございました。



